

第51回中日理論言語学研究会

## 述語の叙述機能についての表と裏

—中国語と日本語の動作述語を例に—

沈 力

lshen@mail.doshisha.ac.jp

同志社大学大阪サテライト  
2019年12月15日

## 1. 叙述類型と語彙範疇の対応関係

• ことばは如何にわれわれの世界を捉えているのか

ことばの角度から見れば、われわれの世界は“モノ(thing)”と“コト(event)”によって構成されている。“モノ”は、有情物/無情物や具体的/抽象的な個体を含むすべての物質的概念を指し、“コト”は、ある特定の時間内に、これらの“モノ”が参与する行為、事態および状態を指す。(影山2007)

• 述語の叙述類型について

周知の通り、“述語”には叙述機能がある。通常、“モノ”の性質を叙述する機能を属性叙述機能と呼び、“コト”の展開を叙述する機能を事象叙述機能と呼ぶ。

(cf. 佐久間1941, 三上1955, Carlson et al.1980, Givón1984, 益岡1987, 2004, 2008, 影山2007, 2009, Krifka et al.1995)

2

### 1.1. 日本語述語の叙述類型の特徴 (Cf. 寺村1973, 益岡2004, 2008, 影山2009)

- 属性叙述について
    - a. 構文の特徴：属性所有者と属性叙述を反映する[主題-述語]
    - b. 意味の特徴：属性所有者の本来の「帰属や特性」を叙述する。
  - 事象叙述について
    - a. 構文の特徴：動詞の項構造を反映する[主語-述語]
    - b. 意味の特徴：事象の一時的展開と収束を叙述する。
- (1) 形容詞文における主題と主語(cf. 益岡2000)
- a. 山田は怖い。 (属性叙述：山田の固有属性)
  - b. あいつのことが怖い。 (事象叙述：一時的状態)

3

### (2) 不定動詞における時間性の有無

- a. 太郎は英語がわかる。 (「将来読み」なし)
- b. 太郎は東京に行く。 (「将来読み」あり)

### 1.2. 語彙範疇の特徴と叙述類型の対応関係

#### (3) The scale of temporal stability (Cf. Givón 1984:54)

most stable(property)-----least stable (Event)  
tree(N)-green(A)                      sad(A)-know(V)                      work(V)-shoot(V)

4

- 根拠 1

[Stage-level predicates]と[Individual-level predicates] (cf. Carlson1980)

(4) 属性形容詞と事象形容詞(cf. Carlson1980:125)

- a. \*Martha saw the policeman {tall/intelligent/careless}.
- b. Martha saw the policeman {drunk/available/angry}.

- 根拠 2

属性叙述動詞[States]と事象叙述動詞[activities] (cf. Vendler1967)

(5) 事象の発生：What happened?

- a. \*He knew the truth.
- b. She swam.

5

(6) 事象の展開：be -ing

- a. \*He is Knowing the truth.
- b. She is swimming.

(7) 時間的束縛：for an hour

- a. \*He knew the truth for an hour.
- b. She swam for an hour.

• ところが, 各述語にも二面性あり：

(8) 同様な動作動詞：smoke (cf. Krifka et al. 1995: 20)

- a. Italians smoke. <GEN[x; ] (x are Italians; x smoke)>
- b. Italians is smoking. <∃x [Italians(x) & smoke(x)]>

6

(9) 同様な属性形容詞：白い (cf. 益岡2000)

- a. 雪は白い。 固有属性
- b. 雪が白い。 臨場感

• さらに, 各二面性には偏りもあり：

(10) 形容詞「白い」の基本用法と特殊用法

- a. 富士山は白い。 <基本：文脈なし>
- b. 富士山はもう白い。 <特殊：文脈あり>

(11) 動詞「裁断する」の基本用法と特殊用法

- a. 太郎は紙を裁断(する/した)。 <基本：制限なし>
- b. シュレッダーは紙を裁断(する/\*した)。 <特殊：制限あり>

7

(12) 叙述類型と語彙範疇の対応関係

- a. 時間安定制限は語彙範疇を特徴づける。 (Cf. Givón 1984:54)
- b. 時間安定制限は各語彙毎に特徴づける。

• Givón仮説(3)は, 述語の基本用法のみに注目しているのではないか！

語彙範疇	語彙的意味	無標機能	有標機能
動作動詞	ACTIVITY	事象叙述	属性叙述
形容詞	STATES	属性叙述	事象叙述

8

- 本研究の目的

- 自然言語の動作動詞における下記の2つの叙述機能を記述する。
  - 無標機能→動作者が引き起こす動作に対する描写
  - 有標機能→動作事象に参加する対象物の特徴に対する解説

- 日本語の動作動詞：対象物の性質

対象物自体が備えている性質が如何に動作事象に反映されているのかについて解説する。

- (13) a. 対象物xが有情物なら、そのxにある動作事象に反映される習性があることを解説する。  
 b. 対象物xが無情物なら、そのxにある動作事象に反映される性能があることを解説する。

9

- 中国語の動作動詞：対象物の参与

対象物が如何に動作事象に参加しているのかについて解説する。

(14) 動作事象におけるある対象物の分担を解説する。

- a. 対象物xが有情物なら、そのxがある動作事象における役割分担を解説する。  
 b. 対象物xが無情物なら、そのxがある動作事象における用途分担を解説する。

(15) 動作事象におけるある対象物の関与度を解説する。

- a. 対象物xが有情物なら、そのxがある動作事象に対する関与度を解説する。  
 b. 対象物xが無情物なら、そのxは意志性を持たないので、動作事象に関与することができない。よって関与度叙述用法がない。

10

## 2. 動作動詞における基本的叙述機能：事象叙述

- 動作動詞における事象叙述の統語的特徴

- 項構造制約：

語彙要素Xの項は、統語的にその語彙要素の最大投射XPに分けられる。

(16) 動作動詞文における項実現のプロセス

LCS: [(x) ACT ON (y)]

↓

項構造: (x (y))

cf. Grimshaw (1990)

↓

句構造: [NP(=x) [V NP(=y)]]

cf. Baker(1988)

11

(17) a. (x) ACT ON (y)

b. 叩く(x(y))

c. |お父さんが|太郎を叩いた||こと。

- 動作主制約：

有情物→自律道具→媒介道具→助長道具

(Cf. Rappaport Hovav & Levin 1992, 影山・沈 2012)

(18) a. そのシュレッターは、紙を裁断した。 <自律的道具>

b. \*あのバットは、野球ボールを打った。 <媒介道具>

c. \*ストローは、ジュースを飲んだ。 <助長道具>

12

## (19) 中国語の場合

- a. 那只 熊猫 吃-了 一根 竹子。  
that-CL panda eat-PF one-CL strawberry  
‘あのパンダは笹を一本食べた。’
- b. 那台 印刷機 正在 印 報紙  
that-CL printer PROG. print newspaper  
‘あの輪転機は新聞を印刷している。’
- c. ?这把 钥匙 终于 打開了 大門。  
this-CL key finally open-PF door  
‘この鍵はとうとうドアを開けた。’
- d. \*这把 叉子 吃了 一碗 意大利面。  
this-CL fork eat-PF one-CL spaghetti  
‘このフォークはスパゲッティを食べた。’

- 動作主制約に関して、日本語は中国語より厳しいことがわかる。

13

## 3. 日本語の動作動詞における属性叙述機能

## 2.1. 有情物の習性と役割について

- 日本語の動作動詞が不定形である場合、「項構造制約」と「動作主制約」を受けながら、有情物の習性を叙述することができる。

- 飲食寝起きを表す動作動詞：習性

## (19) a. ヨーロッパ人はパンを食べる。

事象読み：指定(specific)xはパンを食べる予定。（時間制限）

習性読み：類(genetic)xとはパンを食べるものだ。（非時間制限）

## b. 太郎はきついお酒を飲む。

事象読み：指定(specific)xは、きついお酒を飲む予定。

習性読み：指定(specific)xは、きついお酒を飲むものだ。

14

- 動作者の社会活動を表す動作動詞は、動作者の役割を解説することができるが、難しい。この構文は、一般に異なる動作を対立させることが普通であるが、それだけではない。

## (20) a. 夫は仕事をして、妻は家事をする。 (3/5)

事象読み：指定(specific)のxとyは各自xxをする予定。

(?)役割読み：類(genetic)のxとは仕事する役、yとは家事する役。

## b. この会社では、花子はお客様の対応をし、太郎はお金を管理する。

事象読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事をする予定。

(?)役割読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事を分担している。

## (20') 関係節にする場合 (5/5)

## a. 「夫は仕事をして、妻は家事をする」という分担。

## b. 「太郎はホールで接客し、次郎はキッチンで手伝う」という分担。

15

- 即ち、習性叙述には特に制限がないが、役割叙述には自足性がない。

## (21) (解説者は、オリックスチームの優勝理由について解説する)

## a. ?オリックスでは、一郎選手が出塁し、ニール選手が返す。

## b. オリックスでは、「一郎選手が出塁し、ニール選手が返す」という作戦をとっている。だから、優勝した。

- 一方、役割分担は必ずしも重文の必要はない。→特殊役割

## (22) (小学生に農民の社会に対する役割を解説する)

## a. 農民は田を耕す。 (2/5)

## b. 農民は飲食業も経営する。 (5/5)

16

## 2.2. 無情物の性能について

- 自動機器の場合：性能読みのみ，付加価値なし。

(23) a. シュレッターは，紙を裁断する。

#事象読み：指定(specific)xはあとで紙を裁断してくれる。

性能読み：類(genetic)xとは紙を裁断するものだ。

b. その印刷機は，ポスターを刷る。

#事象読み：指定(specific)xは，あとでポスターを刷ってくれる。

性能読み：指定(specific)xは，ポスターを刷るものだ。

17

- 媒介機器の場合：性能読みのみ+付加価値あり  
動作主制約に違反しているが，媒介道具は動作事象のための道具だから。

(24) a. ?この刀は肉を切りますよ。 (2/5)

b. この刀は鉄を切りますよ。 (4/5)

×事象読み：指定(specific)xは，あとで鉄を切ってくれる。

性能読み：指定(specific)xは，鉄を切るものだ。

(25) a. ?この洗剤は汚れを落とす。 (2/5)

b. この洗剤は汚れをよく落とす。 (5/5)

×事象読み：指定(specific)xは，あとで汚れをよく落としてくれる。

性能読み：指定(specific)xは，汚れをよく落とすものだ。

18

(26) a. ?このハサミは紙を切ります。 (2/5)

b. このハサミは布を切るんですよ。 (4/5)→布を切る専用ばさみ

×事象読み：指定(specific)xは，あとで布を切ってくれる。

性能読み：指定(specific)xは，布を切るものだ。

cf. 受動文の主題に対する異なる制約(益岡1987)

a. ?この論文/私は，彼らに褒められた。 「受影性制約」

b. この論文は，チョムスキーに褒められた。 「価値制約」

- 助長機器の場合，助長道具は動作事象専用のためのものではなく，動作者が便宜上利用するための道具である。「動作主制約」に違反する(?)。

(27) a. \*このストローは，スムーズにジュースを飲む。

b. \*このフォークは，おいしくスパゲッティを食べる。

19

## 2.3. 属性叙述の超時間性

動詞不定形，時間要素と共起しないこと

(28) a. ヨーロッパ人はパンを食べている。

事象読み：指定(specific)xはパンを食べている最中

×習性読み：類(genetic)xとはパンを食べるものだ。

b. 太郎はきついお酒を飲んでいる。

事象読み：指定(specific)xは，きついお酒を飲んでいる最中。

×習性読み：指定(specific)xはきついお酒を飲むものだ。

(29) a. 夫は仕事をしていて，妻は家事をしている。

事象読み：指定(specific)のxとyは各自xxをしている最中

×役割読み：類(genetic)のxとは仕事する役，yとは家事する役。

20

b. この会社では、花子はお客様の対応をしいて、太郎はお金を管理している。

事象読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事をしているところ

×役割読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事を分担するものだ。

・性能叙述構文にも、アスペクト標識が生起しない。

(30) a. シュレッターは紙を裁断した。

事象読み：指定(specific)xは紙裁断が完了する。

×用途読み：類(genetic)xとは紙裁断が完了した属性。

b. その印刷機は、ポスターを刷った。

事象読み：指定(specific)xは、ポスター印刷が完了。

×用途読み：指定(specific)xは、ポスター印刷が完了した属性。

21

・【習性読みと役割読みと性能読み】の弁別：

下記の質問文の答えになるかどうか。

(31) a. xxxxは、どんな嗜好がある？ →(19)

b. xxxxは、どんな仕事をする？ →(20)/(21)/(22)

c. xxxxは、どんな性能がある？ →(23)/(24)/(25)/(26)

22

・小まとめ

・日本語の動作動詞(不定形)には、動作者の2つの側面の属性を解説する機能がある。

a. 動作者の習性を、動作者のACTを通して解説する。

b. 動作者の役割を、動作者のACTを通して解説する。

・日本語の動作動詞(不定形)には、機器の性能を解説する機能があるが、動作主制約を受ける。動作主性の低い機器には「付加価値条件」が必要である。さらに低い場合、機器の性能を解説できない。

a. 自動機器の性能を、自動機器のACTを通して解説する。

b. 媒介機器の性能を、媒介動作の特殊性を通して解説する。

c. 助長機器の性能を、助長動作の特殊性を通して解説できない。

・動作者の役割解説について、並立文が要求されない。→中国語

23

## 4. 中国語の動作動詞における属性叙述

4.1. 有情物の習性と役割について

・日本語と同様、中国語の動作動詞(不定形)には、有情物(動作者)の2つの属性を解説する機能がある。

a. 動作者の習性を、動作者のACTを通して解説する。

b. 動作者の役割を、動作者のACTを通して解説する。

・飲食寝起きを表す動作動詞：習性

(32) a. 熊猫 吃 竹子。

panda eat strawberry,  
‘パンダは笹を食べる。’

事象読み：指定(specific)xは笹を食べる予定。 (時間制限)

習性読み：類(genetic)xとは笹を食べるものだ。 (非時間制限)

24

b. 那只 熊猫 吃 细 竹子。  
that-CL panda eat thin strawberry  
‘あのパンダは細い笹を食べる。’

事象読み：指定(specific)xは細い笹を食べる予定。

習性読み：指定(specific)xは細い笹を食べるものだ。

• 動作動詞は、動作者の社会活動を通して役割を解説する。一般に、対照主題文で役割の相違を叙述する。

(33) 工人 做工, 农民 种地。 <generic>

worker do work farmer plow field  
‘労働者は製造をする人で、農民は田を耕す人だ。’

事象読み：指定(specific)のxとyは各自xxをする予定。

役割読み：類(genetic)のxとは製造する役、yとは田を耕す役。

25

(34) 张三 卖货, 李四 收钱。 <specific>

Zhangsan sale goods Lisi receive money  
‘張三是商品を売る人で、李四はお金を受け取る人だ。’

事象読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事をする予定。

役割読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事を分担する。

• 単文の成立条件1：COPULA文「是～的」

(35) a. ?农民 种地。 <generic>

farmer plow field  
‘農民は田を耕す。’

b. 农民 是 种地的。  
farmer COP plow field light N  
‘農民は田を耕すものだ。’

26

(36) a. ?张三 卖货。 <specific>

Zhangsan sell goods  
‘張三是商品を売るという担当。’

b. 张三 是 卖货的。  
Zhangsan COP sell goods light N  
‘張三是商品を売るものだ。’

• 単文の成立条件2：役割質問文に対する返答

(37) a. 张三 管 什麼？

Zhangsan be responsible for what  
‘張三は何を担当する。’

b. 张三 卖货。  
Zhangsan sale goods  
‘張三是商品を売るものだ。’

27

• 日本語と同様、中国語のこの種類の属性叙述文は動詞の不定形であり、時間的要素があってはならない。

(38) a. 熊猫 在 吃 竹子。  
panda PROG. eat strawberry  
‘パンダは笹を食べている。’

事象読み：指定(specific)xは笹を食べている最中。

× 習性読み：類(genetic)とは笹を食べるものだ。

b. 那只 熊猫 在 吃 细 竹子。  
that-CL panda PROG. eat thin strawberry  
‘あのパンダは細い笹を食べている。’

事象読み：指定(specific)xは細い笹を食べている最中。

× 習性読み：指定(specific)xは細い笹を食べるものだ。

28

- 役割叙述文には進行標識が生起する場合、「役割」読みが不可能。

(39) a. 工人 在 做工, 農民 在 種 地。  
worker PROG.do work farmer PROG.plow field  
‘労働者は製造をしていて、農民は田を耕している。’

事象読み：指定(specific)のxとyは各自xxをしている最中

×役割読み：類(genetic)のxとは製造する役、yとは田を耕す役。

b. 張三 在 賣 貨, 李四 在 收 錢。  
Zhangsan PROG.sell goods Lisi PROG.receive money  
‘張三は商品を買っていて、李四はお金を受け取っている。’

事象読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事をしている最中

×役割読み：指定(specific)xとyは、異なる仕事を分担する。

29

### 3.2. 無情物の「用途」について

日本語の動作動詞は、無情物の性能を解説する機能があるのに対して、中国語の動作動詞は、無情物の用途を解説する機能がある(?)。

(40) a. ?那台 印刷機 印 報紙。 <自動機器>  
that-CL printer print newspaper  
‘あの印刷機は新聞を刷る。’

b. ?那把 钥匙 開 大門。 <媒介機器>  
that-CL key open-PF door  
‘その鍵はドアを開ける。’

c. ?這個 叉子 吃 意大利面。 <助長機器>  
this-CL fork eat spaghetti  
‘このフォークはスパゲッティを食べる。’

- 「xxxx用來干什麼(何に使う)」という質問の回答文とすれば、OK!

30

(41) a. Q: 那台印刷機用來干什麼?(あの印刷機は何に使う?)

A: 那台印刷機印報紙。(あの印刷機は新聞を刷る。)

b. Q: 那把钥匙用來干什麼?(その鍵は何に使う?)

A: 那把钥匙開大門。(その鍵はドアを開ける。)

c. Q: 這把叉子用來干什麼?(このフォークは何に使う?)

A: 這把叉子吃意大利面。(このフォークはスパゲッティを食べる。)

【役割叙述と用途叙述】：下記の質問文の答えになるかどうか。

(42) a. xxxx管什麼(どんな分担なの)? →(39)

b. xxxx用來干什麼(何に使う)? →(40)

- 疑問：a. 中国語の「用途叙述文」はなぜ動作主制約を受けないのか。
- b. 中国語の「用途叙述文」はなぜ単独で成立しにくいのか。

31

- 提案：

中国語の用途叙述文の構成は【主題-述題】であり、主題はcovert verb “USE-FOR(用來)”の目的語が主題化したものである。述題は[USE\_FOR(用來)+動作動詞句]である。

(43) [TOPIC 這把叉子]<sub>i</sub>, (X) USE t<sub>i</sub> FOR [(X)吃意大利面]。

- メリット：

1. USE FORを設定することによって、中国語の用途叙述文も項構造制約と動作主制約を受けると説明することができる。
2. 用途叙述文は結局「用來(USE FOR)」というovert verbの省略という直感が反映される。Cf. (41)
3. 単独で成立しない理由は、「有情物の役割→無情物の用途」の派生なので、役割叙述の制約を受け継いだのではないか(?)。

32

根拠1: 「用途叙述」叙述は「役割叙述」の対照主題文の制約を受けることから、「役割叙述」から派生した用法(?)

- (44) a. 那台 印刷機 印 報紙, 這台 印刷機 印 廣告  
that-CL printer print newspaper this-CL printer print poster  
‘その印刷機は新聞を刷るもので、その印刷機はポスターを刷るものだ。’
- b. 那把 钥匙 開 大門, 這把 钥匙 開 小門。  
that-CL key open big-door this-CL key open small-door  
‘その鍵は正門を開けるもので、この鍵は通用門を開けるものだ。’
- c. 這把 叉子 吃 意大利面, 那把 叉子 吃 法国菜。  
this-CL fork eat spaghetti that-CL fork eat French  
‘このフォークはスパゲッティを食べるもので、そのフォークはフランスを食べるものだ。’

33

• 主題の作用域は節(clause)の境界を超えるので、この形式で主語と主題の区別が明確に示されうる。

- (45) a. 这把 剪子, [只 较 绸子, 不 较 粗布]。  
this-CL scissors only cut silk not cut cloth  
‘このはさみは、シルクを切るが、布を切らない(のだ)。’
- b. 这个 房间, [只 吃饭, 不 跳 舞]  
this-CL room only eat rice not jump dance  
‘この部屋はご飯を食べるだけで、ダンスをしない(ところ)。’
- c. 这桶 油漆, [只 刷 窗户, 不 刷 大门]。  
this-CL paint only brush window not brush door  
‘この塗料は窓を塗るだけで、門を塗らない(ものだ)。’

34

根拠2: 類名詞(generic)の用途が叙述できないという制限がある。これは[用來(USE FOR) 動作動詞句]構文の主題制約による。

- (46) a. \*印刷機 印 報紙。  
printer print newspaper  
‘印刷機は新聞を刷る。’
- b. \*钥匙 開 大門。  
key open door  
‘鍵はドアを開ける。’
- c. \*叉子 吃 意大利面。  
fork eat spaghetti  
‘フォークはスパゲッティを食べる。’

35

- (47) a. \*叉子<sub>i</sub>, 用 (它<sub>i</sub>) 來 吃 意大利面。  
fork use it for eat spaghetti  
‘フォークは、スパゲッティを食べるのに使う。’
- b. 這把 叉子<sub>i</sub>, 用 (它<sub>i</sub>) 來 吃 意大利面。  
this-CL fork use it for eat spaghetti  
‘このフォークは、スパゲッティを食べるのに使う。’

↓

- (48) 「xxxx用來干什麼(xxxxは何に使う?)」に対して
- a. \*叉子<sub>i</sub>, (~~用 它<sub>i</sub> 來~~) 吃 意大利面。  
fork use it for eat spaghetti  
‘フォークは、スパゲッティを食べる (ために使う) 。
- b. 這把 叉子<sub>i</sub>, (~~用 它<sub>i</sub> 來~~) 吃 意大利面。  
this-CL fork use it for eat spaghetti  
‘このフォークは、スパゲッティを食べる (ために使う) 。

36

根拠3：動作動詞に動作主性制約があるので、主題名詞が動作動詞の外項であれば、日本語と同様、自動的機械の用途に限る。ところが、中国語の動作叙述文で叙述できるのは、機械類のみならず、道具名詞、塗料名詞、場所名詞の用途も含まれる。この事実はUSE FORを仮定することによって説明できる。

(49) <すべての機器>

这把 菜刀 切 牛肉, 那把 菜刀 切 猪肉。  
this-CL knife cut beef that-CL knife cut pork  
‘この包丁は牛肉を切るもので、あの包丁は豚肉を切るものだ。’

(50) <材料>

这桶 油漆 刷 窗户, 那桶 油漆 刷 大门。  
this-CL paint brush window that-CL paint brush door  
‘この塗料は窓を塗るもので、あの塗料は門を塗るものだ。’

37

(51) <場所>

这个 房间 画 画儿, 那个 房间 锻炼 身体。  
this-CL room draw picture that-CL room train body  
‘この部屋は絵を描く(ところで)、あの部屋は体を鍛える(ところだ)。’

根拠4：主題の意味役割解釈が如何に保証されるか。

(52) <事象叙述文>

- a. 这把 剪子<sub>i</sub>, 张三 \*(用 它<sub>i</sub>) 绞了 一段 绸子。  
this-CL scissors Zhangsan use it cut-PF one-CL silk  
‘このハサミは、張三がそれでシルクを切った。’
- b. 这个 房间<sub>i</sub>, 张三 \*(在这里<sub>i</sub>) 做了 一顿 饭。  
this-CL room Zhangsan at here cook-PF one-CL rice  
‘この部屋は、張三がここでご飯を作った。’

38

・用途叙述文では「用(USE FOR)」を設定しないと、主題名詞の意味役割の解釈が保証されえない。

(53) <用途叙述文>

- a. 这把 剪子<sub>i</sub>, USE (t<sub>i</sub>) FOR 绞 绸子,  
this-CL scissors cut silk  
那把 剪子<sub>i</sub>, USE (t<sub>i</sub>) FOR 绞 麻绳。  
that-CL scissors cut rope  
‘このハサミはシルクを切るもので、そのハサミは縄を切るものだ。’
- b. 这个 房间<sub>i</sub>, USE (t<sub>i</sub>) FOR 吃 饭,  
this-CL room eat food  
那个 房间<sub>i</sub>, USE (t<sub>i</sub>) FOR 喝 茶。  
that-CL room drink tea  
‘この部屋はご飯を食べるところで、その部屋はお茶を飲むところだ。’

39

根拠5：形式名詞「的(light noun)」の転指(空範疇との照応関係)でUSEの存在が証明できる。

・「的」の意味解釈：空範疇指示

(54) 主語と目的語の場合

- a. [<sub>NP</sub>[<sub>VP</sub> 開(drive) 大巴(bus)] 的<sub>i</sub>] (过来(come)!)  
‘バスを運転している人、来て。’
- b. [<sub>NP</sub>[<sub>VP</sub> 张三 開(drive) 的<sub>i</sub>] (都旧了(become old).)]  
‘張三が運転したもので、もう古いよ。’

(55) 道具の場合

- a. \* [<sub>NP</sub>[<sub>VP</sub> 张三 開 大巴] 的] (拿(bring)过来(come)!)  
‘張三がバスを運転する道具、持ってきて。’
- b. [<sub>NP</sub>[<sub>VP</sub> 张三 用(use) 的<sub>i</sub> 來 開 大巴] 的] (拿过来!)  
‘張三がバスを運転するのに使っている道具、持ってきて。’

40

- “NP是VP的(NPはVPモノだ)”では、“的”の照応関係連鎖が要求される。

- (56) a. 张三<sub>i</sub> 是 [NP|VP<sub>i</sub>开大巴] 的<sub>i</sub>  
Zhangsan COP  
‘張三は、バスを運転する人だ。’  
b. 这辆 大巴<sub>i</sub> 是 [NP|VP 张三开<sub>i</sub>] 的<sub>i</sub>  
this-CL bus COP  
‘このバスは、張三が運転するものだ。’
- (57) a. \*這個時候<sub>j</sub> 是 [NP|VP<sub>i</sub>开大巴] 的<sub>i</sub>  
‘この時は、バスを運転する時だ。’  
b. \*這個時候<sub>j</sub> 是 [NP|VP 张三开<sub>i</sub>] 的<sub>i</sub>  
‘この時は、張三が運転する時だ。’  
c. 這個時候<sub>i</sub> 是 [RC 张三开大巴的] \*(時間)<sub>i</sub>  
‘この時は、張三がバスを運転する時だ。’

41

- 「用途叙述COPULA文」では、“的”の意味解釈は動作主ではなく、USEの対象物である。

- (58) a. 这把 菜刀<sub>i</sub> 是 [NP|USE<sub>i</sub> FOR 切 牛肉] 的<sub>i</sub>。  
this-CL knife COP cut meat light N  
‘この包丁は牛肉を切る(のに使われる)ものだ。’  
b. 这个 房间<sub>i</sub> 是 [NP|USE<sub>i</sub> FOR 画 画儿] 的<sub>i</sub>。  
this-CL room COP draw picture light N  
‘この部屋は絵を描く(のに使われる)ところだ。’  
c. 这桶 油漆<sub>i</sub> 是 [NP|USE<sub>i</sub> FOR 刷 窗户] 的<sub>i</sub>。  
this-CL paint COP brush window light N  
‘この塗料は、窓を塗る(のに使われる)ものだ。’

42

- 根拠6：(用途・役割)属性叙述文は事象の展開(時間)に束縛されない  
ので、予想通り、進行相標識「在」と共起しないことが観察される。

- (59) a. 这把 菜刀 (\*在) 切 牛肉, 那把 菜刀 (\*在) 切 猪肉。  
this-CL knife PROG. cut beef that-CL knife PROG. cut pork  
‘この包丁は牛肉を切(\*っている)もので、あの包丁は豚肉を切(\*っ  
ている)ものだ。’  
b. 这些 土豆 (\*在) 炖 牛肉, 那些 辣椒 (\*在) 炒 羊肉。  
this-CL potato PROG. stew beef that-CL pepper PROG. fry lamb  
‘これらのポテトは牛肉を煮るのに使われ(\*っている)もので、それら  
の唐辛子はラムを炒めるのに使われ(\*っている)ものだ。’  
c. 这个 房间 (\*在) 画 画儿, 那个 房间 (\*在) 弹 钢琴。  
this-CL room PROG. draw picture that-CL room PROG. play piano  
‘この部屋は絵を描くのに使われ(\*いて)るもので、あの部屋はピア  
ノを弾くのに使われ(\*っている)ものだ。’

43

- 根拠7：中国語の動作動詞の事象叙述文には処置化が適用できるのに対し  
て、用途叙述文にはそれが適用できない。

木村(2008)によれば、処置文は、「動作動詞の内項を際立たせる視点で動作事象を捉えなおす」という構文である。処置文と基底文(変換前の文)の間の変換には、基底文の入力・出力二つのレベルの条件がある。入力レベルの条件は、「変換前の文には他動性の高い事象が要求される」というものであり、出力レベルの条件は、「変換後の文には、与影性(effectivity) (動作主がある対象物を取り立てて何らかの結果になるまで影響を及ぼすこと)が要求される」というものである。

- (60) 処置化規則：

[transitivity SVO] → [effectivity S 把 O<sub>i</sub> V Ø<sub>i</sub>]

44

- (61) a. 张三切猪肉。‘張三は肉を切る’  
 →张三 把 猪肉 切(完) 了。  
 Zhangsan BA pork cut-finish PF  
 ‘張三は豚肉を(すべて)切った。’  
 b. 张三用面粉。‘張三が小麦粉を使う’  
 →张三 把 面粉 用(完) 了。  
 Zhangsan BA flour use-finish PF  
 ‘張三は小麦粉をすべて使った。’

• 用途叙述文の他動性が低いので、処置化できない。

- (62) a. \*这把 菜刀 把 牛肉 切了, 那把 菜刀 把 猪肉 切了。  
 this-CL knife DISP beef cut-PF that-CL knife DISP pork cut-PF  
 ‘この包丁は牛肉を切ってしまい、あの包丁は豚肉を切ってしまった。’

45

- b. \*这些 土豆 把 牛肉 炖了, 那些 辣椒 把 羊肉 炒了。  
 this-CL potato DISP beef stew-PF that-CL pepper DISP beef fry-PF  
 ‘これらのポテトは牛肉を煮てしまい、それらの唐辛子はラムを炒めてしまった。’  
 c. \*这个 房间 把 画儿 画了, 那个 房间 把 鋼琴 弹了。  
 this-CL room DISP picture draw-PF that-CL room DISP piano play-PF  
 ‘この部屋は絵を描いてしまい、あの部屋はピアノを弾いてしまった。’

• 役割叙述文も処置化できない。なぜなら「役割読み」が不可能になるから。

(63) 「xxx管什麼(どんな分担なの)」に対して

- a. \*工人 把 工 做了, 農民 把 地 種了。  
 worker DISP work do-PF farmer DISP field plow-PF  
 ‘労働者は製造をやってしまい、農民は田を耕してしまった。’  
 b. \*張三 把 貨 卖了, 李四 把 錢 收了。  
 Zhangsan DISP goods sell-PF Lisi DISP money receive-PF  
 ‘張三は商品を買ってしまい、李四はお金を受け取ってしまった。’

46

## 4. 結論と展望

### • 結論

動作動詞の属性叙述は、事象叙述機能を前提とする特殊機能である。

#### A. 日本語と中国語の共通点

動作動詞には「動作者(有情物)に対して、(飲食寝起の)習性と(社会活動の)役割」を解説する機能がある。ただ、動作動詞の事象叙述の制約(項構造制約・動作主制約)を受け、不定形に限る。

#### B. 日本語と中国語の相違点(1)

日本語では、「有情物の習性→無情物の性能」という派生関係があるのに対して、中国語では、「有情物の役割→無情物の用途」という派生関係がある。(?)

47

#### C. 日本語と中国語の相違点(2)

日本語では、「無情物の性能」を叙述する場合、動作動詞の項構造制約や動作主制約の縛りを受けるが、中国語では、SUE FORの項構造制約や動作主制約を受ける。

### • 展望

語彙範疇	語彙的意味	黙認機能	特殊機能
動作動詞	ACTIVITY	事象叙述	属性叙述
形容詞	STATES	属性叙述	事象叙述

• 日中間に形容詞の黙認機能(属性叙述)と特殊機能(事象叙述)はどうかを考察する必要がある。

48

・ 参考文献

- ・ Baker, Mark (1988) *Incorporation*. Chicago: University of Chicago Press.
- ・ Carlson, Gregory (1980) *Reference to Kinds in English*. New York: Garland.
- ・ Chomsky, Noam (1995) *The Minimalist Program*, Cambridge, Mass.: MIT Press.
- ・ Dowty, David (1979) *Word meaning and Montague grammar*. Dordrecht: Reidel.
- ・ 江口清子 (2008) 「事象叙述述語による属性叙述」益岡隆志(編)『叙述類型論』93-114. 東京：くろしお出版.
- ・ Givón, Talmy (2001) *Syntax: an introduction Vol. I*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- ・ Grimshaw, Jane (1990) *Argument structure*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- ・ 影山太郎 (1996) 『動詞意味論』東京：くろしお出版.
- ・ 影山太郎 (2004) 「軽動詞文としての『青い目をしている』構文」『日本語文法』4(1):22-37.
- ・ 影山太郎 (2009) 「言語の構造制約と叙述機能」『言語研究』136: 1-34.
- ・ Kageyama, Taro and Hiroyuki Ura. 2002. "Peculiar passives as individual-level predicates." *Gengo Kenkyu* 122: 181-199.
- ・ 影山太郎・沈力 (2012) 「付加詞主語構文の属性叙述機能」影山太郎・沈力(編)『日中理論言語学の新展望 意味と構文』東京：くろしお出版.

49

- ・ 木村英樹 (2008) 「北京語授与動詞“給”の文法化 - <授与> と <結果> と <使役> の意味的連携 -」生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一(編)『ヴォイスの対照研究 - 東アジア諸言語からの視点』93-107. 東京：くろしお出版.
- ・ 金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」『言語研究』15. (金田一春彦(編)『日本語動詞のアスペクト』東京：むぎ書房, 1976)に再録.
- ・ Kratzer, Angelika. (1996) Stage-level and individual-level predicates. In: Gregory Carson and Francis Pelletier (eds.), *The Generic Book*. Chicago: University of Chicago Press, 125-175.
- ・ Kratzer, Angelika; Jeffrey Pelletier, Francis; Carlson, Gregory; Meulen, Alice; Godehard Link, and Chierchia, Gennaro. (1995) Genericity: An Introduction. In: Gregory Carson and Francis Pelletier (eds.). *The Generic Book*. Chicago: University of Chicago Press, 1-124.
- ・ 呉人恵 (2010) 「クリヤーク語の属性叙述-主題化メカニズムを中心に-」『言語研究』138: 115-147.
- ・ Levin, Beth (1998) *English verb classes and alternations: A preliminary investigation*. Chicago: University of Chicago Press.
- ・ Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav (2006) *Argument Realization*. Cambridge: Cambridge University Press.
- ・ Li, Charles N. and Thompson, Sandra A. 1976. "Subject and Topic: A New Typology of Language". In Charles N. Li. *Subject and Topic*. New York: Academic Press.
- ・ 小野尚之 (2005) 『生成語彙意味論』東京：くろしお出版.
- ・ 定延利之 (2008) 『煩惱の文法』東京：ちくま新書.

50

- ・ 益岡隆志 (1987) 『命題の文法-日本語文法序説』東京：くろしお出版.
- ・ 益岡隆志 (2000) 『日本語文法の諸相』東京：くろしお出版.
- ・ 益岡隆志 (2004) 「日本語の主題-叙述の類型の観点から-」益岡隆志(編)『主題の対象』3-17. 東京：くろしお出版.
- ・ 益岡隆志 (2008) 「叙述類型論に向けて」益岡隆志(編)『叙述類型論』3-18. 東京：くろしお出版.
- ・ Pinker, Steven (1989) *Learnability and cognition: The acquisition of argument structure*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- ・ Pustejovsky, James (1995) *The Generative Lexicon*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- ・ Rappaport Hovav, Malka and Beth Levin (1992) -Er nominals. In Tim Stowell and Eric Wehrli (Eds.) *Syntax and Semantics 26: Syntax and the lexicon*, 127-153. New York: Academic Press.
- ・ Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in philosophy*. Ithaca: Cornell University Press.
- ・ 熊鷹 (2009) 『鍵がドアをあけた-日本語の無生物主語他動詞文へのアプローチ』東京：笠間書院.
- ・ 朱德熙 (1983) 「自指与转指」《方言》第一期.

51